

「みんなで創る授業」

～ 子どもの姿から確かな学びへつなげる授業改善 ～

研究スタイル

授業改善「わくわく大作戦」

- ◎子どもの実態（アセスメント評価、ICFの視点等）をおさえた授業実践を行う。
- ◎子どもの目指す姿を明確にした授業づくり、子どもの姿から振り返る授業改善を行う。
（学習指導内容表、自立と社会参加をめざす学習内容表等をおさえた目標 評価規準）
- ◎教員による協働的な学び合いを進める。
 - ・授業検討チームによる検討会（見える化、効率化）
 - ・一人1回の「研究授業 or 授業公開」、「教材教具・指導法の工夫シート」の作成
 - ・校内人的資源の有効活用
（教材・授業支援研究室、授業改善アドバイスシステム、授業参観システム等）
- ◎子ども自身が ICT 機器を使って学びを広げる実践
⇒子どもに応じた様々な活用方法の共有、検証

～つくる・つたえる・つなぐ～

専門性の向上「S&T 大作戦」

- ◎授業力向上や子ども理解等に
関わる研修を行う。
 - ・授業改善研修会
 - ・夏の公開研修会
 - ・さがちゅうゼミ（自主研修会）等
 - ◎自己研鑽を支える環境の充実
 - ・教材教具・指導法の工夫シート
ファイル閲覧、検索システム
 - ・過去研修会 DVD の閲覧
 - ・ポスター等掲示物による情報共有
- ※S&T: study and training
研究と修養⇒研修

合理的配慮「EE 大作戦」

- ◎中央支援スタンダードの活用、充実に取り組む。
 - ・統一シンボル
 - ・統一サイン
 - ・フロントゼロ
 - ・教室内の環境整理
 - ・右側通行
 - ・教室内の掲示物
 - ・手順書
 - ・水泳学習進度表
 - ・UD フォントの積極的使用
 - 新型コロナ感染症への対策
- ※EE: educational environment

授業改善 「わくわく大作戦！」

今年度の取り組み

教員による協働的な学び合い

学部部門ごとにグルーピングし全18チームで「ベースミーティング⇒授業⇒改善検討会」を1クールとして、年間4クール行った。

子どもの姿から振り返る授業改善

改善検討会の視点を子どもの姿にあて、評価規準に基づいて振り返りを行うことで、子どもの学びの過程から実態を捉え直し、目標をより明確にした。

1 クール

『ベースミーティング』



授業者のオーダーを中心に
⇒意見、アイデア

『授業』

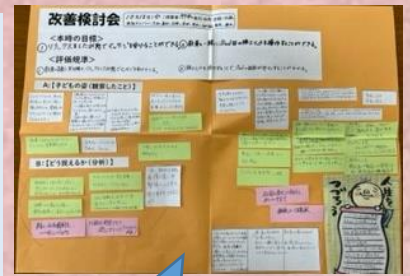


ベースミーティングを受けて、授業へ反映

『改善検討会』



子どもの姿がどうだったか
(評価規準)に着目する。
⇒参観者の気づき、意見



付箋やシートを使用し、
見える化・効率化

～一人ひとりの実践発信の場～

○一人1回の研究授業もしくは 授業公開 (119件)

日常の授業を振り返り授業改善に繋げた。他教員の授業を知り、お互いが参考にできるよう、授業公開のまとめファイルを作成したり、ポスターで紹介したりした。

○「教材教具・指導法の工夫シートの 作成と「校内実践公開」

発信力を高めることをねらいとして一人1枚の「教材教具・指導法の工夫シート」を作成し掲示した。また、校内実践公開として、教材教具・指導法の工夫についての実践を発表し指導情報を共有した。

授業検討チームによる授業検討会

授業者のみでは気づけない視点からの意見やアドバイスを出し合う、聴き合うことを通し、チームでの学び合いをねらいとして取り組み、ほとんどの教員が、ベースミーティングや改善検討会が気づきや学びを得ることのできる場となった。(アンケート結果より)



子ども自身がICT機器を使って学びを広げる

iPadは高等部、視聴覚部門の子どもが活用している割合が多く、AIスピーカー・視線入力 は 肢体部門の一部の子どもが主に活用している傾向にあった。次年度は個に応じた有効な活用を広げることができるよう、個々のICT活用の実践を全体で共有する。

校内人的資源を活用

『教材・授業支援研究室』

教材制作・活用支援や職員への技術的支援等に取り組み、夏季休業中には、延べ100人以上の教員が知恵を絞り、教材制作を行った。

専門性の向上「S&T大作戦！」

今年度の取り組み

全体で行う授業改善研修会、希望者が参加する夏の公開研修会、さがちゅうゼミを実施し、いろいろな視点からの研修会を通して、授業力向上や子ども理解について学び合い共有することができた。

研修会名	実施予定日	講師及び講演内容
授業改善研修 * 授業力向上や子ども理解に関わる研修	5月～6月 7月21日(木) 7月28日(木) 8月30日(火) 7月21日(金) 10～11月	①水泳指導研修会(各学部・部門で実施) ②共和小合同授業検討会(8分科会で実施) ③「ICF 関連図作成について」(講演&グループ演習) 「授業やケース会でのICF 活用について」 横浜国立大学教授 徳永 亜希雄 氏 ④講演会「視機能の視点から子どもを捉える」 慶應義塾大学 自然科学研究教育センター 大貫二三恵氏 ⑤学部部門別研修会(各学部部門のニーズに応じた研修)
他部門紹介研修	8月29日(月)	視聴覚部門と訪問が取り組みを紹介
全体研究講演会	R5. 2月2日(木)	講演会「子ども理解と子どもに寄り添った関わり」 東京都立矢口特別支援学校 主任教諭 川上 康則氏

夏の公開研修会～4つの講座～8月1日

～切れ目のない支援について～
緑障害者相談支援キーステーション
田極 法恵氏



視覚障害について
杉山節子教諭



親子ムーブメント運動教室
森田みゆき教諭



ろうとして
下村宏亮教諭

さがちゅうゼミ～12 講座開催～

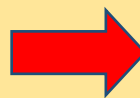
- ・手話で話してみよう
- ・Enjoy! スポーツ
- ・太田ステージ評価
- ・視線入力装置を使ってできること
- ・感覚のお話エピソード1～5
- ・将来充実した生活を送るために学校教育において求められること
- ・静的弛緩誘導法
- ・「おはしの
おはなし」
⇒



合理的配慮 「EE 大作戦！」

《スタンダード》

- ア 統一シンボルを使用した日課カードによるスケジュール提示
- イ 統一サインをコミュニケーション手段として活用
- ウ 教室の前面や室内の環境整備及び校内の環境整備
- エ 水泳学習進度表による適切な課題設定に基づく水泳指導
- オ 「手順書」の活用と充実
- カ UDフォントの積極的な活用
- キ 新型コロナウイルスへの対策



子どもたちが戸惑うことなく学び続けることができる環境づくりのため、学校全体で指導のつながりを意識し、共通理解して取組めるよう一人一冊手元に置き、活用を進めてきた。

